

# 北海道教区報

第542号

発行所

天理教北海道教務支庁  
札幌市中央区南8条西11丁目  
電話 011(561)-1148  
FAX 011(561)-1190  
E-mail:kyouku-h@vega.ocn.ne.jp

印刷

三浦印刷株式会社

## 全教一斉にをいかけデー 小雨の中も勇んだ声で…

もちろん、にをいかけは日々心するもので、よふぼくとして三日間だけつとめる御用ではありませんが、支部内のよふぼく・教会長が一緒にをいかけの活動をするのは、大

9月28、29、30日開催の『全教一斉にをいかけデー』。北海道は支部の広さから、活動時間よりも移動や集合に時間を取られます。しかし、参加した人は皆、勇んで講演に力を入れ、リーフレットを配り「道の辻々でにをいをかけてくれ」とのお言葉を実行しようと努力を重ねました。



例年は、御用のため参加できなかった西垣教区長さんも支部の皆さんと一緒に路傍講演に立ち、雨が降る中でしたが、勇んだ声を響かせました。



来年も揺るぎない気持ちでをいかけデーに率先して参加し、陽気ぐらしを世の中に広めましょう。

大きな意味を持っています。

この夏の高校野球で天理が躍動した裏には、布教の家で毎日をいかけに歩く青年が、ある方に声をかけたことから縁となり、息子さんが天理高校に入っ

## 第12回 教区音楽祭 『日頃の努力が実る秋』～鼓笛も雅楽も生き活きと～

10月1日、教務支庁大会議室において、第12回天理教北海道教区音楽祭を開催した。当音楽祭は、教祖120年祭の年に、音楽という文化活動を通して、将来のお道を担う若い人々の育成を図る上から、「小さな種まき」として始められ、今年で12回目を迎えた。

当日は好天気に恵まれ、5団体が参加、主催者、出演者、付添、一般の聴衆の方々を合わせ、146名の参加となった。午後1時より、那須めぐみさん（蘭西分教会所属）司会のもと、西垣教区長の開演の挨拶。第一部として天理教北海道雅楽会が絃ものを含む8種の楽器、三管14名で管絃双調「胡飲酒破」、太食調「抜頭」の2曲を披露。同雅楽会は第8回目（岩見沢）以来2回目の参加となった。

続いて第二部では鼓笛の演奏で、夕張団鼓笛隊、高台鼓笛隊、小樽支部鼓笛バンドが次々に演奏し、最後にこどもおどろばがえりのテーマソングである「笑顔ひろがれ！たすけあい」を三団体合同で演奏した。最後の第三部では教区合唱団（コール・ノース・ピュア）が登壇。一曲目はいつも通り三代真柱様作詞作曲の「親神様の守護（おやのまもり）」を演奏。続いて一般の曲を5曲披露した後、おうた第17番「一れつは皆きようだいい」を演奏。最後は団員も聴衆に混じり「翼をください」を参加者全員で合唱した。

高橋太志教化育成部長が終演の挨拶を述べて、午後2時30分に終了した。（担当・荒川）



北陸団高台鼓笛隊



夕張団鼓笛隊



北海道教区合唱団  
(コール・ノース・ピュア)



小樽支部鼓笛隊



北海道雅楽会

北海道教区のホームページ <<http://tenrikyohk.wixsite.com/tenrikyo-hk>> 教区報がご覧頂けます。

### 後継者講習会 開催中!!

「心の向きを変えれば、人生はもっとわくわくする」をキャッチフレーズに、8月開催の第1次を皮切りとして、全25次にわたって「後継者講習会」がおちばで開催されている。毎回九〇〇名ほどの次代のお道を担う若者たちが一堂に会し、陽気ぐらしを日々実践することを目標に掲げ、2泊3日の合宿で開催されている様子は圧巻の一言。「講話」や「クラスミーティング」「グループタイム」などを通して、日頃様々な環境の中で過ごしているものが、それぞれの思いに真剣に耳を傾け、自分の思いを口に出すことは、受講者にとってとても新鮮味のある講習会となっている。以下、受講者の感想を一部紹介します。

「普段世間で働いているので、知らない人たちと天理教についていろいろな話を考えあえていい経験になった。みんなが素直で直球で意見してくれたので、新鮮でもしろかったです」(20代・女性)「特に社会に出て働いている人から話を聞く事が多く、自分が今まで考えたことのないことや、普段は天理教に関わっていない中でも、社会で教えをどう活かしているのかを聞く機会もあり、とても関心に思うことが多かった」(20代・男性)「クラスミーティングの中では、天理教の話をするといつたことには重点を置かず、あくまで自分の身近な人、普段の自分の行動を陽気ぐらしに向けて簡単なところから変えてみようという内容であったので、新鮮に感じた」(20代・男性)「明日から実践できることをみんなと考えたりする時間もあり、実践的で現実味のあるねらいができたのも良かったです」(20代・男性)「非常に多くの人と自分たちの悩みをうちあけあい、解決に向かって全員が少しずつ変わり始めている様子が3日間の中で感じられ、とても満足感があります」(20代・男性)など、この講習会でなければ味わえないような感想が多く聞かれています。

☆まだまだ3月まで次数は残っていますので、あなたの身近な若者に是非声がけをお願いします。対象は、20歳から40歳まで。詳細申し込みは直屬を通してお願いします。

### 基礎講座

#### ：：： 地方会場開催

基礎講座(事務局長・藤野充普)は釧路会場、羽幌会場それぞれ開催した。

●9月24日、釧路市生涯学習センターを会場として開催、一般・信者11名を含む合計48名が受講された。釧路支部(栗栖文夫支部長)は今回9年ぶりの開催ということで、前回の間隔が開いてしまつたが、管内のようばくに広く働きかけ、本講座にお誘いし、遠くは網走・根室方面からも受講された。

●10月1日、羽幌町立中央公民館を会場として、25名が受講された。天龍支部(松下敏孝支部長)は毎年、全教一斉にをいがけデーと連動して本講座を開催している。会場に設定した羽幌町には教会がない。地域活動という組織をもって同町に積極的に布教を展開したいという理由で



あった。その結果、同町内から8名の方が受講された。教会は常に地域に根差した布教をして行かねばならない。にをいがけをし、おたすけをしてゆく中に、教えの根幹である基礎(か)のかりもの・親神様、教祖、ちば)を確かにお伝えせねばなりません。布教する時間と深い教理が必要であり、決して

て簡単なことではない。一人ですべてをすることは難しい。基礎講座は研修を受けられた講師がお話の部分を担当しています。基礎講座を「おちばへの入り口」として布教の一助にご利用頂きたいと思えます。尚、基礎講座は現在、来期係員を募集しています。

### 教区青年会

#### 9月(にをいがけ強調月) 活動報告2題

▲去る9月9日、洞爺湖町にて緑化ひのきしんを実施した。

例年と比べると参加会員数が若干少ないように思われたが、全員が草刈り機を持ち、愚直にひのきしんに励んだことにより、桜公園の除草作業は、例年の二倍の広さの草刈りが出来、一緒にひのきしんにあたたった町職員若木課長さんも驚きの声を上げていた。また、熟練者が経験の浅い人に指導したり、声をかけ合いながらする姿にたすけ合いの雰囲気を感じた。



洞爺湖町の緑化ひのきしんは30周年の節を過ぎ、次の40周年に向けて一年一年と着実に時を刻んでいる中である。来年以降も町と共に青年会員の助け

【参加者】  
青年会員22名 女子青年4名  
少年会員2名

# 「信仰のバトンを」

## 次の世代へ…」

渡島支部長 水島 久治



夏の親里は子ども達や高校生  
の賑やかな声が響き渡る。旗を  
掲げたりタスキを付けた団体  
が、神苑を行き交っている。連  
日30度を超える猛暑にもかかわらず、元気がいいで各行事に  
参加する子ども達。そしてタオ  
ルで汗をぬぐいながら、引率す  
る方々。何とも微笑ましい光景  
だ。

こどもおちばがえりが終わる  
と、次は学生生徒修養会が始ま  
る。この『学修』に全国各地か  
ら、大勢の高校生がおちばに  
帰ってくる。教会子弟や信者子  
弟を始め、中には友達から誘わ  
れて全くお道を知らない高校生  
も参加するのである。

私はかつて学修のスタッフと  
して、彼らと行動する機会が  
あった。おちばで過ごす一週間  
で、彼らの顔や態度がみるみる  
変わっていく様子を何度も目に  
した。イヤイヤ参加させられた  
り、期間中「もう帰る」と口に  
していた生徒が、修了の時には

涙を流して友との別れを惜しん  
だり、様々な悩みを抱えて参加  
してもらえた喜びを笑顔で話す  
徒。全くお道がわからなかった  
が、「もっと勉強したい」と信  
仰を求める生徒。そして誰もが  
「またこのおちばで会おう」と  
約束する。

わずか七日間の修養会で得る  
充実感・満足感のわけは何故か  
と考えると、大勢のスタッフの  
親身の世話取りにもまして、教  
祖が学生一人ひとりを親心でお  
見守り下さり、喜び勇んで過ご  
せるようお連れ通り下されてい  
ることに気付く。

今年、わが教会から久しぶり  
に学修に参加してくれる高校生  
がいた。修了日の翌日から学校  
が始まるにもかかわらず参加し  
てくれた。期間中にハガキが届  
いた。「初めて学生の行事に  
参加して最初はドキドキしてい  
ましたが来てよかったです！と今で  
は心から思います。たった一週

間でしたが最高の友達ができ、そ  
の友達と笑い、泣き、最高の思  
い出ができました。おつとめを  
する意味ひのきしんをする意  
味、陽気ぐらしをする意味、沢  
山のことを学んだ一週間は一生  
の宝となりました。」参加して  
くれた後も教祖からごほうびを  
頂いた一人だと思ふ。

今は信仰のバトンを次の世代  
へ渡す句と考えれば、学修に限  
らずおちばで開催される講習会  
には、積極的に参加を呼びかけ  
たい。おちばではいつも教祖  
が、道の子どもの帰りをお待ち  
下さっている。彼はきつと来  
年も、学修に参加してくれるだ  
ろう。

### 第14回子どもの未来を考える集い 開催のご案内

テーマ：「さまざまな問題を抱える  
子どもたちへの具体的支援を考える」  
— 家庭、学校、地域の役割 —

日時：立教180年11月11日（土）  
13：00～16：00（12：30受付）

会場：北海道教務支庁 2階大会議室

内容：第一部（90分）  
教育講演「一教師の生きた道」  
～学び教えの中で自然の心理を求め  
偉大さ知る（神への感謝の心が育つ）～  
講師・奥林 茂 先生  
（上久分教会責任役員  
北海道教区道の教職員の集い顧問）

#### 第二部 交流会（60分）

参加の皆さんから講演講師への質問、  
意見交換等交流しましょう。

※参加料、事前の申込は不要です。  
お子様連れでも参加出来ます。  
どなたでもお気軽に、ご自由に御参加下さい。  
※お問い合わせは…

教務支庁 (011-561-1148) まで

去る9月23日、小樽天理教館  
にて「**布教の体験in小樽**」が  
開催された。本年6月より教  
務支庁内の布教の家を拠点に  
毎月実施している活動である  
が、今回は寮生の久米田君の  
出身地・小樽にて活動を展  
開。前日より天理教館に集ま  
り、懇親会も兼ねた夕食では  
夜遅くまで布教談義に花が咲  
いた。明  
くる23  
日、全員  
で神名流  
し、小樽  
駅前での路傍講演後、参加者は  
ペアになり、前日にくじ引きで  
決めた目標を胸に戸別訪問に歩



いた。それぞれの目標は、教館  
に初参拝者をお連れする、戸別  
訪問で50回断られる、おさづけのお  
取次ぎなど様々で  
あり、普段、目標  
を決めずに歩いて  
いる会員もいつも  
以上に意欲を持っ  
て歩いていた。  
結果、初参拝者  
2名、おさづけ1件、御供1件  
の御守護を頂いた。毎月実施し  
ているので、青年会員の皆さん  
には布教の家の寮生と共に真実  
の汗を流す機会にして頂きたい  
です。  
参加会員数10名。

私達が子供の頃には喧嘩をした時に、棒など物を持ち出す者は卑怯者と云われた。喧嘩はよくない事ではあるが、同じ条件で戦うのが人としての本筋だといふのである。そして、卑怯という言葉は私達にとっては大変はずかしい、なさない意味を感じていた。だから自分だけ棒を持つことはしなかった。

それから、あるやさしい同級生は、いじめを見た時には必ず中に入って「弱い者いじめはしてはならない」とたしなめたが、当時は反発しないで皆納得して手を引いたものである。つまり皆の心の中には、弱い者いじめは卑怯である思いが教え込まれていたのである。

では、これは誰が教えたのであるのか。それは当時の世相がその雰囲気を含んでいたため、家庭や学校、社会が教えたのである。

過日、障がい者施設に乱入し、多くの障がい者を惨殺した事件が起きた。犯人は正常人ではないといふことだが、それで済まされるものではない。最近の多くの不幸な事件を紐解いて

てみても分かるのだが、すべての事件の背景には社会、世相が無関係というものはない。もちろん世相には学校も家庭も含まれる。世相が正しい教育に欠けたものがあつて影響を受けていると思うのである。

教育とは、ただ知識を詰め込

『教理随想 十九』

心の教育

木岡 昭

むだけのものではない。また学校だけのものでもない。文字通り教えて育てるのである。いくら教えても、育つていかねば意味がない。育つとは、人間としての価値を身につけ、立派に生きていけるようになることである。人は一人では生きていけな

い。他人と助けあつていかねば生命を失う。だから立派に生きていけるためには、人と共に生きる教育が大切で、それは知識と共に心の教育を忘れてはならない。

他人と共生するために大切なことは、一人ひとりの運命を尊重することである。人はそれぞれ異なる運命を与えられて生かされている。その事を自覚して、すべての生命は意味があつて神様からこの世に生かされていると悟り、助けあうべきである。

さて私達の信仰は生き方の教えである。生きていく上で最も大切で基本的な、心の道の教えである。神様は親から子、人から人へと伝えてくれと仰せである。教育は口先で伝えるだけでは人の心を育てられない。やはり伝える人自身が本気で教えを身につけ、実践しながら教え導かないと本当の教育にはならない。特に心の教育は家庭が大切である。

学生会

ワーク&トーク開催

学生会では10月14、15日、教務支庁を会場に大学生、専門学

校生を対象としたワーク&トークを開催しました。今年はお道に触れるコースと深めるコースに別れて行い、お道について知ってもらう事、より深く学んでもらう事を目的として、事前から打ち合わせを重ねてプログラムをねりあいました。

受講者の方で、初めて天理教を知る方や、今までくわしく知る機会がなかった方には、お言葉から始まり、深めるコースの方には、逸話編を読み、ねりあ

い、2日目には各コースから1人ずつ「神様を感じた瞬間」をテーマに感話をしていただきました。普段の生活ではできない、同年代とお道について話すことで自分の意見を言ひやすく、また

コースに別れることで知識をより深めることができたと思います。今回のワーク&トークを通して、スタッフはより教理について知っていくことが大切だと感じました。大学生層のスタッフは今後のおつとめ総会、春学と

続く行事で中心となり動く存在なので今回のワーク&トークはとても良いものになりました。

けいごばん

◎法律に関わる諸問題で相談

の方は弁護士を紹介致します。教務支庁内の書記(渡部)までご連絡下さい。

◎手話・点字講習会

毎月1日、教務支庁にて午後6時から8時まで行います。※雅楽練習会も併行して開催しています。(三布連)

◎毎月26日に本部月次祭遙拝式をおこなっております。

北海道教務支庁日誌抄

9月23日 教区合唱団練習日  
図書修理会

24日 基礎講座天龍支部会場  
講師 高橋政嗣 先生

26日 月次祭遙拝式  
(受講者48名 累計8千420名)

29日 布教の家寮祭  
たすけ推進会議

10月1日 教区音楽祭  
基礎講座天龍支部会場  
講師 奥村尚人 先生

2日 支部長会議  
(受講者25名 累計8千445名)

4日 任命願書発送

10日 事情願書発送

14日 学生会 Work & Talk  
19日 教区報

計報

・原田ウメ子様 10月2日出直 (83歳)  
蘭野里分教会長 (室蘭支部)

参加人数

ふれるコース 5人  
深めるコース 9人  
学担・スタッフ 8人